

無償資金協力「人材育成奨学計画」(JDS)

(Japanese Grant Aid for Human Resource Development Scholarship)

平成31年4月

外務省開発協力総括課

経緯

開発途上国の市場経済への移行等を支援するため、平成11年度に新設され、ウズベキスタン、ラオスを対象に開始。平成15年以降、アジア経済危機でみられたように経済的困難な下で構造改革を進める国（フィリピン等）も対象国として受入れを開始。

目的

当該国の指導者となることが期待される優秀な若手行政官等を育成することであり、ひいては各留学生在が日本の良き理解者として活躍し、二国間関係が強化されること。

実績

これまでに15か国から4,302名を受入れ。現在では、アジアを中心に13か国で実施しており、年間約320名を受け入れている。帰国後は中央省庁の幹部職に登用されるなど、各国で政策立案に関わる要職に就き活躍。

2019年より新たにブータン、パキスタン、東ティモールから受け入れることとなり、ブータンについては2018年4月の首脳会談において言及された。

2019年に来日する留学生

366名（16カ国：ミャンマー、ウズベキスタン、ラオス、モンゴル、タジキスタン、カンボジア、ベトナム、バングラデシュ、フィリピン、キルギス、ネパール、ガーナ、スリランカ、東ティモール、パキスタン、ブータン）



ベトナム首相来日時、総理晩餐会
(左から2番目がJDS留学生)

ベトナム	計画投資省
ミャンマー	最高裁判所
	計画財務省
カンボジア	外務国際協力省
フィリピン	情報通信技術省
ラオス	計画投資省
バングラデシュ	人事省
キルギス	経済省
	大統領府
ウズベキスタン	公教育省

要職に就くJDS帰国留学生（一部）（2019年4月現在）